

研究機関：広島大学

研究課題名	悪性高熱症の診断・治療および安全な麻酔に関する研究
研究責任者名	堤 保夫
研究期間	2008年10月28日(倫理委員会承認後)～2026年3月31日
対象者	悪性高熱症の素因診断を行った後、余った筋肉で本研究を行うことに同意を述べた方

意義・目的

悪性高熱症は全身麻酔薬で起こる遺伝性の病気です。吸入麻酔薬や一部の筋弛緩薬で起こることが分かっていますが、稀な疾患であり、まだ解明されていない部分も多いです。また、悪性高熱症をおこす可能性を調べる素因診断は、現在は筋肉を採取して行っていますが、より侵襲の少ない診断方法を開発する必要があります。今回、素因診断後の余った筋肉を使用して、さまざまな薬剤に対する反応を調べることで、悪性高熱症の患者さんにも安全に使用できる薬剤を明らかにすることと、新しい素因診断法を開発することを目的にこの研究を計画しました。

方法

本研究は、素因診断後の余った筋肉を使用していきます。

筋肉にさまざまな薬剤を投与して、細胞内のカルシウムの濃度の変化を観察します。その反応を比較することで、その薬剤が悪性高熱症をおこしうる可能性を判断します。(この研究のために新たに筋肉を採取することはありません)

共同研究機関

広島県立障害者リハビリテーションセンター 麻酔科